

## 「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」の検討状況について

文化財課

## 1 経緯

- 令和2年 7月 5日 令和2年度第1回千葉市史跡保存整備委員会開催  
「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(素案)」を諮問
- 令和2年 8月26日 令和2年度第1回千葉市立博物館協議会開催  
以下の2点について文化財課より報告  
①市立博物館の役割分担と周辺の歴史博物館との棲み分け  
②「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」の検討状況
- 令和3年 3月10日 令和2年度第2回千葉市立博物館協議会開催  
以下の2点について令和3年度に追加検討を行い、基本計画を策定することを報告  
①新博物館の整備方式と運営手法  
②新博物館の整備と併せて加曽利貝塚周辺で進める集客事業等の事業化
- 令和3年 3月16日 令和2年度第3回千葉市史跡保存整備委員会  
「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(中間取りまとめ案)」の報告

## 2 「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(中間取りまとめ案)」について

【説明資料】「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(中間取りまとめ案)」 [報告資料2](#)「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(中間取りまとめ案)」概要版 [報告資料3](#)素案(令和2年7月5日千葉市史跡保存整備委員会へ諮問)からの主な修正内容 [報告資料4](#)

## (1)素案からの主な修正点

千葉市立博物館協議会や千葉市史跡保存整備委員会をはじめ、ワークショップや庁内検討等の意見を踏まえ、素案を修正しました。

## 第I章 施設の基本方針

- ・「背景と本計画の位置づけ」について、価値・魅力に関する記載を追記するとともに、課題を整理しました。
- ・新博物館ゾーンのテーマを「貝塚を中心とする縄文文化の研究」に修正しました。あわせて、計画書中の「縄文文化」を文脈に併せて「縄文時代の社会と文化」などの表現に改めました。
- ・SDGsに関する記載について、169のターゲットとの整合性を図るなど、再検討を行いました。

## 第II章 事業活動計画

- ・事業活動計画の全体像と個々の事業活動の関係性を見直しました。
- ・「教育・普及」に縄文時代や貝塚への興味喚起を目的とした縄文秋まつりなどのイベントを含めることとしました。
- ・「集客・交流」事業を見直し、「史跡ガイドンス」、「利用者サービス」、「広報・集客連携」に区分しました。
- ・従来記載していた「集客」の内容は、博物館の利用者サービスなど博物館が本来行うべき事業であったため、新博物館が行う「集客」を新たに定義直し、集客イベントの誘致や近隣の観光施設等との連携など「集客連携」を博物館の事業活動としました。また、ターゲットを絞った的確な広報活動も集客と密接に関わることから、「広報・集客連携」としました。

・「交流」はあらゆる事業活動に関わる事項であることから、それぞれの事業活動のなかに分けて含めることとしました。

### 第Ⅲ章 施設計画

・「諸室の構成」および「機能構成」の記載内容について、事業活動計画と整合を図りました。

### 第Ⅳ章 展示計画

・探求型展示「加曾利ラボ」の展示テーマ案を見直しました。

・没入型展示「縄文体験空間」について、映像主体の展示計画に変更しました。当初、原寸大模型を用いた空間の再現を計画していましたが、映像主体の展示構成とします。

・対話型展示「未来ラウンジ」について、事業活動内容を見直しました。活動アーカイブス「私たちの貝塚」の展示を取止め、「縄文トークテーブル」の活動メニューの一つとします。

### 第Ⅴ章 管理運営計画

・組織体制のイメージに新たに「保存研究担当」を追加しました。

#### (2) 今後の進め方

令和3年度は中間取りまとめ案をもとに、新博物館の施設規模を約5,000㎡として、整備方式や運営手法、整備スケジュールについて検討を進めています。

7月30日に「特別史跡加曾利貝塚博物館整備・運営手法等及び集客活用エリア事業化検討調査業務」の委託契約を締結しており、今後、その検討結果を反映させて修正の上、基本計画を取りまとめる予定です。